

## 令和元年度 第2回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和元年8月26日（月）午後2時00分～午後5時15分

開催場所：岡崎市役所 東庁舎6階 東601

出席委員：7名

瀬口哲夫委員・加藤安信委員・三浦正幸委員・丸山宏委員  
奥田敏春委員・堀江登志実委員

欠席委員：1名 中井均委員

説明のために出席した事務局職員：8名

社会教育課：中村耕課長・菅沼貴之岡崎城跡係係長・  
山口遥介主査・中根綾香主事

まちづくりデザイン課：市川正史課長・山本礼美主査  
塚本拓也技師

公園緑地課：植村信幸係長

傍聴者：なし

次第

### 1 議題

- (1) 岡崎城跡清海堀発掘調査について
- (2) 歴史文化資産解説板等の整備について（非公開）
- (3) 岡崎公園藤棚売店について（非公開）

### 2 現地確認

- (1) 籠田総門発掘調査について
- (2) 歴史文化資産解説板等整備について
- (3) 石垣毀損樹木伐採について

議事内容

### 1 議題

- (1) 岡崎城跡清海堀発掘調査について  
事務局：調査の目的及びトレンチ位置について説明。

【質疑応答】

委員：トレンチの大きさはどの程度なのか。

事務局：7m×6mになるが、深さが3m掘るので安全勾配を付け掘るので、  
最深部では2m×3.5mとなる。

委員：深さが3mとなるかなり危険であるが、H鋼等で土止めをするのか。

- 事務局：H鋼を使用することは考えていない。素掘りで安全勾配を付け掘削をする。
- 委員：他の城郭の400年前の空堀の底は概ね2m程度埋没しているのので、3m掘れば堀底まで到達すると思われる。本丸側の切岸の様相から、相当本丸側の土居が崩れて埋まっていると想定される。本丸側の土居について、今回のトレンチでは裾まで達しない。もう少し本丸の土居側へ上面はトレンチを伸ばし、土居の遺構が検出されれば止めれば良いのではないか。このままでは埋まったところばかり掘っていることになる。
- 事務局：本丸側の上部は円礫を含む礫層になるので、それを追うように埋没しているところは掘っていく。本丸側の土居の方も延ばして調査を行っていく。
- 委員：本丸側の土居の形状が台形かどうか確認するのなら本丸側をT字状に幅を広げていけば。
- 事務局：本丸土居側は調査区を延ばすなり、幅を広げるなり検討したいと思う。
- 委員：等高線から見ると二か所折れ線状になっているが、当時の切岸の作り方では折れ線状に切岸を切るのではなく、丸く出っ張らせて切っている。その上に鉢巻石垣を作り、石垣は建物の基礎になるから真っすぐに作らないと基礎にならないから台形上にするが、下の土居の方は台形上に必ずしもする必要がないので丸いままであったかもしれない。
- 委員：近世の初めに丸い形状の切岸に土を張ったということになるのか。
- 委員：石垣の角部分が堀側に出っ張ってくるから、上の石垣が不安定になるので貼り土をするとそこが出っ張るということもある。清康や家康が掘った堀であれば折れ線状に掘っていると考えなくても良い。上だけ後から石垣を作ったということになる。そうならトレンチ1が東によりすぎなのでは、もう少し西側に設定すれば、切岸の曲がっていく状態が分かると思う。
- 事務局：少し西側に寄せるようにする。
- 委員：トレンチはどのように設定したのか。
- 事務局：トレンチ2は石垣の積み直し箇所なので設定、トレンチ3については純粹に本丸の大手口の裾の石垣なので下層を確認するためです。トレンチ1は等高線の折れ線ということもあるが、少し西に行くと土居側が法面保護のためのコンクリが張ってあるためそれを避けて設定した。
- 委員：写真を見ると石垣に斜めのラインがある。ラインの左右で積み方が異なるのか。

- 事務局：多少異なる。
- 委員：このラインを避け、東側に設定したのは下にコンクリートがあるからか。
- 事務局：写真にあるようにコンクリートがあるため避けて設定した。
- 委員：写真で見るとこの積み直しは明治期、近代である。
- 委員：東側に行くと近代と近世の境目があるが、今回の位置は仮に決めておいて、実際に行うときは現地で指示するのか。
- 事務局：当然現地で合わせて行う。トレンチ1については西へというご意見があったので、検討したいと考えている。捨てコンみたいに表面を均しているだけなので、大きく支障がある訳ではないと考える。
- 委員：清海堀の名前の由来は。
- 委員：龍頭山を築いたといわれる西郷頼嗣の法名が清海であり、堀を築造としたと言われる。そこから名付けられている。エリアとしてどこまで清海堀というのかは不明。
- 委員：清海堀という名前のついた絵図はあるのか。
- 委員：ない。ただ、ここが一番初めの堀と言われる。
- 委員：どなたが清海堀と名付けたのか。
- 委員：今でも清海堀がどこであるかしっかりとと言えるものではない。今回の発掘箇所のみが清海堀と仰る方もいるが、私はその北の堀を含め清海堀であると思う。
- 委員：その考えで問題ないと思う。清海堀と名付けられたのは年代的には新しいと思う。明治期につけられた可能性も否定できない。江戸期の資料で清海堀の記述はあったが、史料的な価値はゼロである。私は清海が作ったとは考えているので、どこを清海堀と呼んでいただいても構わないと考える。
- 委員：資料的価値のある文献を見ても清海堀を特定しているものはない。本丸の北側を指しているものでしかない。
- 委員：石垣に手が加わっているようだが、その点の資料に加えていただくと議論がしやすいと思う。
- 委員：本来は幕府に届けているはずなので記録はあるはずだが、特に譜代大名は転勤族なので失くしてしまっている。
- 委員：石垣が近代に積まれたものと仰っていましたが。
- 委員：近代というのは積み方でわかる。小さな石を斜めに積んでいっている。谷積みとか落とし積みというのだが、小さな石であると平に積んでいくと崩れていくので、斜めに積んでいく。俗称、百姓積みという。田や畑の護岸として使い、城の石垣とは思えないのでどう見ても近代の石垣である。

- 委員：本丸側の土居が台形上を呈することと北側に石垣が積んであることが関係するのかどうか、問題意識をもって調査を行って欲しい。本来、石垣のない時代に堀を掘っている、石垣の時代になって普通は石垣が見える方に築造していくはずだが、なぜ見えないところから石垣を築造しているのが、北側に台形上に張り出したのと何か関係あるのか。
- 委員：掘ってみないとわからないが、想像すると持仏堂曲輪から本丸に行く帯曲輪は細いため、江戸時代にどんどん崩れて通れなくなってしまったので土止めとして築造したと考える。もともと土居だったので傾斜がもう少し緩かったと考える。緩いということは、堀の位置がもう少し本丸の切岸側に移動する。切岸側に掘らないと掘方が出ないと申し上げている。
- 委員：台形上に張り出したから狭くなって切岸が立ち上がったので石垣を築造したという考え方もある。
- 委員：土居の方を台形にするから反対を石垣にするのであれば、本丸側を石垣にする。見えない方を積むということは崩れ止めと考えられる。そちらが円形に築造しているということは、反対側も円形に出っ張っていると思う。彦根城とかも土居は円形だが上の石垣は台形になっている。
- 委員：近世初頭の石垣を積んだ当初のこの手がかりがあれば発掘の意味があるかと思う。
- 委員：この図面の水野時代は石垣がないのか。絵図で見ると本丸側の石垣があり、反対側の石垣がない。
- 委員：この図は正しく書いているように思われる。その後の絵図では石垣の記載があることから、石垣を築造したのは18世紀中ごろと考えられる。
- 委員：そのあたりの問題意識をもって調査をするように。
- 事務局：現状の石垣でも構築年代のヒントになる部分があると思うのでそれとも見比べつつ調査を行っていく。
- 委員：最初の岡崎城の堀の土を掻き上げて盛った形になると思われるが、当初の部分と手を付けた箇所の違いみたいなのが分かるのか。石垣が積んだ年代を今回確認するという事で良いのか。
- 事務局：中世から堀があって石垣を作るために地山を掘削することになるから、上書きされてしまい当初との違いは分からなくなっていると思われる。
- 委員：石垣の裾をずっと追っていくのか。
- 事務局：石垣側はトレンチで追っていく。根石が確認できればよい。土居側も確認し、堀の形状が確認できればよい。

委員：3m掘るのは危険なので、安全管理はしっかりするように。  
委員：今の意見を整理して調査を行ってください。

- (2) 歴史文化資産解説板等整備について（非公開）
- (3) 岡崎公園藤棚売店について（非公開）

#### 現地確認

(1) 籠田総門発掘調査について  
指摘事項なし

(2) 歴史文化資産解説板等整備について  
岡崎公園（大手門）入口の築地塀に壁付けで設置するのは相応しくない（委員）  
入口付近に直置きで再検討するように（委員）  
基礎の盛土については土が流れない工夫が必要（委員）

(3) 石垣毀損樹木伐採について  
指摘事項なし